感染と関係のあるがん

■参考資料：国立がん研究センター がん情報サービスHP
公益財団法人 がん研究振興財団
「がんを防ぐための新12か条シリーズ～感染とがん～」

がんをひきおこすものというと、たばこや大量飲酒、加齢などが思い浮かぶかもしれませんが、実は、ウイルスや細菌などの感染が、日本人のがん発生要因の20%を占めると推計されています。まずは感染の有無を確認し、がんになる前に手を打つことが重要です。

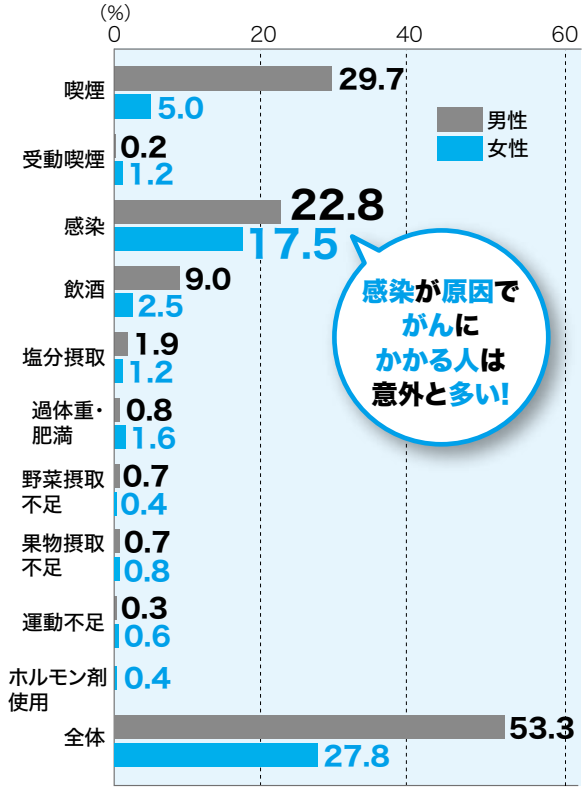
知っていますか？ がんのリスク

日本人の2人に1人がかかるといわれているがん。がんの予防は難しいと思われがちですが、がんにかかりやすい要因を知り、適切な対策をとることでがんのリスクを下げることは可能です。このシリーズでは、わたしたちが知っておきたいがんの発生要因について解説します。

がん要因のうち「感染」は上位を占める

下のグラフは、日本人のがんの中で、生活習慣などの自分で変えられるものが原因を占める割合を試算したもの。「感染」は女性では第1位、男性では喫煙に次いで2位を占めており、見過ごすことができない要因です。

■日本人におけるがんの要因（罹患率）



※国立がん研究センター がん情報サービス「科学的根拠に基づくがん予防」より

「感染」が関係しているがんは主に3つ

日本人に多いのは、下表に示している胃がん、肝がん、子宮頸がんです。ただ、自分が感染しているかは、検査を受けないとわかりません。人間ドックやオプション検査などで受ける機会があれば、ぜひ一度受けておきましょう。肝炎ウイルス検査は自治体でも受けることができます。

※子宮頸がんには予防ワクチンがありますが、現在、定期接種を積極的にすすめることは差し控えられています。

■がんの発生に関するウイルス・細菌

原因となるウイルス・細菌	感染原因	がんの種類
ヘリコバクター・ピロリ(H.pyiori)	・幼児期における親からの口移し ・井戸水等による感染	胃がん
B型・C型肝炎ウイルス(HBV、HCV)	・主に血液感染 ※注射の回し打ち、タトゥー・ピアス等の針の使い回し等。母子感染はワクチンによる対策がとられています。 ・B型は性的接触を介しても感染	肝がん
ヒトパピローマウイルス(HPV)	・性的接触による感染	子宮頸がん、陰茎がんなど

※このほか、悪性リンパ腫や鼻咽頭がんをおこすウイルス(EBV)や、成人T細胞白血病／リンパ腫をおこすウイルス(HTLV-1)などがあります。

もし、感染がわかったらどうしたらよい？

ピロリ菌は除菌治療、肝炎ウイルスは体内からウイルスを排除する治療が確立しています。すぐに医療機関を受診しましょう。ヒトパピローマウイルスの場合、多くの場合自然に消えるといわれていますが、一部子宮頸がんに進展する可能性がありますので、定期的な子宮頸がん検診が必要です。